



第4章 地域別構想

4-1 地域区分

4-2 地域別のまちづくり



4-1 地域区分

1) 地域別構想とは

全体構想では市全体の視点により、将来都市構造や基本方針を示しましたが、より具体的なまちづくりを進めていくためには地域ごとの課題にできるだけきめ細かく対応していくことが必要となります。

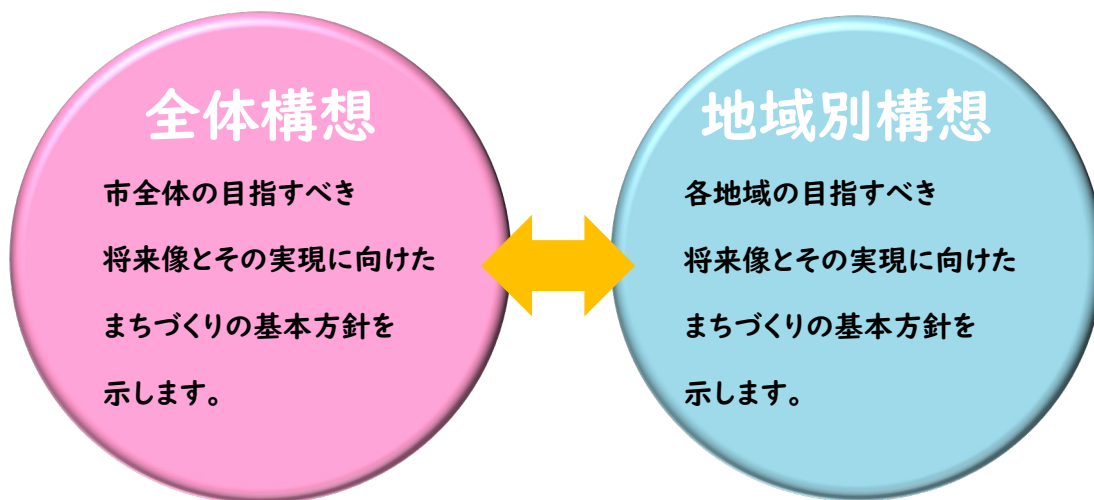
このため、地域別構想は、地域特性に応じた個性あるまちづくりを進めていくにあたり、市内をいくつかの地域に区分し、各地域のまちづくりの目標を設定し、それを実現するためのまちづくりの方針を示します。

地域別構想の策定にあたっては、全体構想における各地域の位置づけや特性、市民アンケート調査結果等を踏まえ、さらにはまちづくりワークショップで出された各地域の魅力ある資源や解決すべき課題等を参考にしながら、地域別のまちづくりの目標や方針を示します。

小松島市都市計画マスタープランは、全体構想と地域別構想から構成されます。

地域別構想は、地域独自の課題に対応したまちづくりの方針を定めます。

全体構想と地域別構想の関係



2) 地域区分の設定

地域区分は、各地域のまちづくりの目標や方針を考えるうえで適切な範囲となるように、地域的なまとまりやつながりを考慮しながら設定しました。

具体的には、日常生活上の交流範囲である小学校区の11地域を基本単位とし、適切なまとまりのある空間の範囲となるよう、地形や土地利用の状況等を区分要素として、①小松島・南小松島・北小松島・千代地域、②児安・芝田地域、③坂野・和田島・新開地域、④立江・櫛淵地域の4つの地域に区分します。

地域区分図



地域区分別の人口と世帯数

地域区分	構成する小学校区域	人口(人)	世帯数(戸)
①小松島・南小松島・北小松島・千代地域	小松島小、南小松島小、北小松島小、千代小	18,405	9,314
②児安・芝田地域	児安小、芝田小	5,140	2,259
③坂野・和田島・新開地域	坂野小、和田島小、新開小	9,687	4,522
④立江・櫛淵地域	立江小、櫛淵小	2,405	1,088
合計		35,637	17,183

※住民基本台帳より集計(令和5年3月末現在)

4-2 地域別のまちづくり

1) 小松島・南小松島・北小松島・千代地域のまちづくり

①地域の概要(小松島・南小松島・北小松島・千代地域)

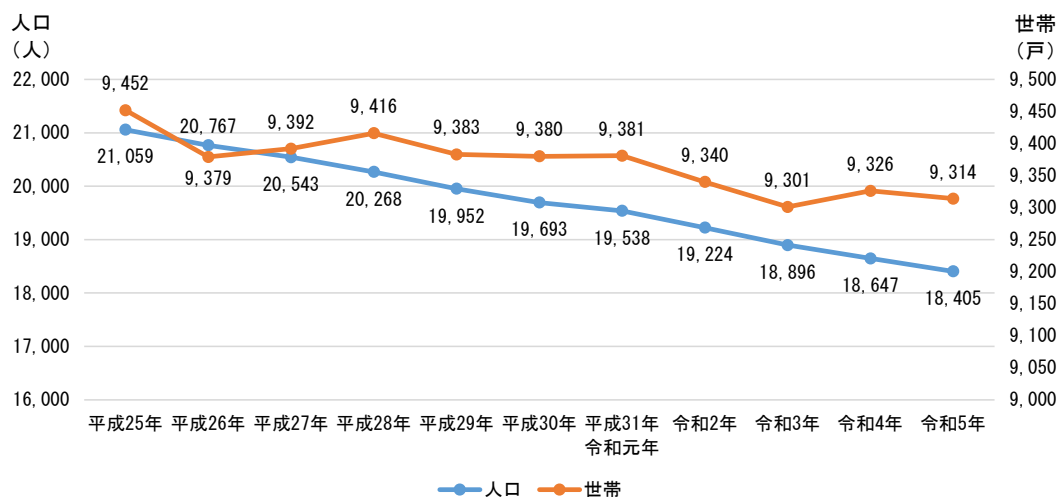
- 「小松島小学校区」、「南小松島小学校区」、「北小松島小学校区」、「千代小学校区」の4つの小学校区で構成します。
- 本市の北部に位置し、徳島市と接しています。
- 地形は、大部分が平地となっており、北部に日峰山があり、東部に海岸部を有しています。

地域の位置等



- 市全体の人口の推移と同様に、本地域においても人口減少が続いています。なお、近年の世帯数はほぼ横ばいとなっています。

地域の人口・世帯

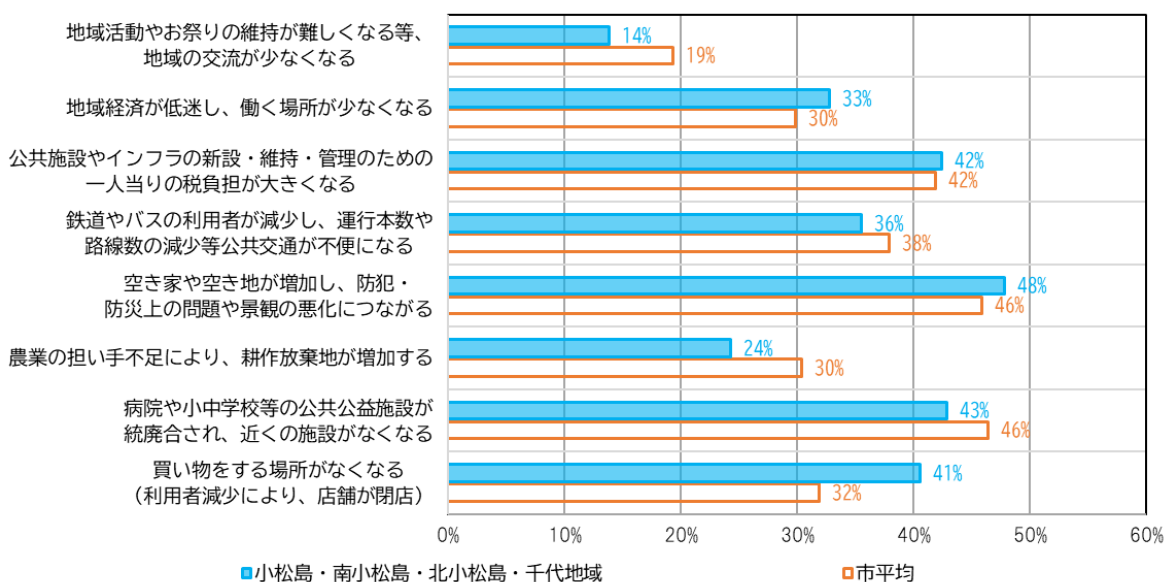


出典:住民基本台帳より集計

②市民の意向

- 市民アンケート調査結果によると、人口減少・少子高齢化による懸念事項として、「空き家や空き地が増加し、防犯・防災上の問題や景観の悪化につながる」という回答が最も多く、市平均を上回っています。また、「地域活動やお祭りの維持が難しくなる等、地域の交流が少なくなる」という回答が最も少なく、市平均を下回っています。

市民アンケート結果 人口減少、少子高齢化による、まちづくりへの影響として心配すること(複数回答可)



③土地利用

- 本地域の大部分が市街化区域に指定されています。
- 港湾部に工業系用途地域が指定され、JR南小松島駅周辺に商業系用途地域が指定されているほか、周辺部に住居系用途地域が指定されています。
- 市役所等の公共施設、県立高等学校等の教育施設、徳島赤十字病院等の医療施設が立地し、利便性の高い中心市街地(中心拠点)が形成されています。

④都市施設

- 都市計画道路のほぼすべてが本域内、あるいは本域を經由しており、近年、国道55号と中心市街地を結ぶ都市計画道路江田小松島港線や都市計画道路芝生日ノ峰線が開通しています。
- 都市計画公園は、徳島市にまたがる日峯大神子広域公園が開設されています。
- 都市公園は、小松島ステーションパークが整備されています。
- その他の主要な公園・緑地は、しおかぜ公園が整備されています。
- 公共下水道施設(雨水処理)は、小松島雨水ポンプ場、外開雨水ポンプ場、金磯南雨水ポンプ場の3施設が供用されています。

⑤まちづくりワークショップの結果概要（小松島・南小松島・北小松島・千代地域）

まちづくりワークショップの結果より、小松島・南小松島・北小松島・千代地域の主な意見やアイデアを集約し、分類ごとにまとめたところ、次のとおりとなっています。

地域の資源

◆施設

「日赤病院」「のぞみの泉」「観光資源（日峰山、街並み）」「金長神社」
「歴史的街並み（本港地区）」
「SL記念広場（小松島ステーションパーク）」

◆産業

「豊富な農水産資源」

◆自然

「千代の松原」「海・山・水」

◆イベント・文化

「狸文化」「阿波花火」「日本初民間航空史」
「多くの伝説（金長狸、田野久等）」「港文化（潜在価値）」

地域の課題

◆都市基盤

「公共下水道の整備」「交通渋滞」「細い道路」「緑が多い公園がない」
「港の利用」「インフラ老朽化」

◆産業

「南小松島駅の近くに飲食店が少ない」「遊休農地の活用」

◆防災

「自主防災会の強化」

◆コミュニティ

「人口減少」「少子高齢化」「空き家」
「文化芸術が低い、音楽ホールがない」「近くに店舗がない」

地域の将来像

◆都市基盤

「デマンド交通の導入」「周遊バスの導入」「安全なまち（道路・防犯）」
「高齢者がいきいきと暮らせるまち」「子育てしやすいまち」

◆自然

「観光名所の活用」

◆イベント・コミュニティ

「学生と地域のまちづくり」「人材バンク、共有システム」
「他のまちからの移住促進」

◆産業

「複合施設の誘致」「大型店舗の誘致」

◆防災

「防災意識を高める」

⑥まちづくりの目標（小松島・南小松島・北小松島・千代地域）

全体構想における位置づけや地域の現況・特性、まちづくりワークショップの結果等を踏まえ、小松島・南小松島・北小松島・千代地域のまちづくりの目標を次のように設定します。

○中心市街地の活性化

現況と課題

本地域は大部分が市街化区域であり、市役所等の官公庁や高等学校、徳島赤十字病院や発達障害がい者支援センター等の医療・福祉施設、小松島ステーションパーク等の公園のほか、商業施設や事業所が集積し、中心市街地を形成しています。

まちづくりワークショップでは、医療機関が充実していることが地域資源としてあげられましたが、人口減少や少子高齢化、空き家の増加、近隣の店舗が少ない等の課題が指摘されています。地域の将来像としては、高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり、子育てしやすいまちづくり、他のまちからの移住促進等が提案されています。

目標

○多様な世代による交流や仕事を通したにぎわいのあるまちづくり

徳島赤十字病院や駅を核として、若い人から高齢者まで多様な世代が仕事や買い物、通院、レクリエーションなど、様々な目的で活動し、交流するにぎわいのある中心市街地の形成を図ります。また、空き地、空き家、空き店舗等については、小松島市空き家バンクの活用等により、多様性のある土地利用を図ります。

○道路や公園等の整備

現況と課題

本地域は都市計画道路江田小松島港線や都市計画道路芝生日ノ峰線等の幹線道路により国道55号へのアクセスもしやすく鉄道、路線バス等の公共交通も一定程度充実していることから、比較的利便性の高い地域ですが、未着手の都市計画道路や都市計画公園があります。また、本地域は沿岸部に面しており、南海トラフ巨大地震等による津波浸水が予想されることから、防災対策も重要となっています。

まちづくりワークショップでは、交通渋滞やインフラの老朽化、緑が多い公園がない等の課題が指摘されています。地域の将来像として、デマンド交通の導入や周遊バスの運行、道路整備や防犯対策による安全なまちづくり、防災意識を高める等の提案がされています。

目標

○様々な災害に強く安全で快適に暮らせるまちづくり

防災機能を高める都市計画道路の整備や都市計画公園（日峯大神子広域公園（脇谷地区））等の整備による防災拠点機能の強化など、災害に強い土地利用の推進により、災害に強く安全で快適に暮らせるまちづくりを推進します。

○産業の振興

現況と課題

本地域では工場の撤退や旅客航路の廃止、徳島赤十字病院移転を核とした市街地再開発事業等により、産業構造が大きく変化しています。

まちづくりワークショップでは、豊富な農水産資源等が地域資源としてあげられましたが、JR南小松島駅の近くに飲食店が少ない等の課題が指摘されています。また、地域の将来像としては、複合施設の誘致や大型店舗の誘致等が提案されています。

目標

○産業・商業等を支える中心拠点としての土地利用と都市基盤整備を進めるまちづくり

中心拠点として、用途地域の指定や立地適正化計画に基づく拠点への都市機能の誘導、工業ゾーンや複合機能ゾーンへの産業集積を図るとともに、都市計画道路の整備により企業活動の利便性向上を図り、産業活動を支える土地利用と都市基盤整備を推進します。

○良好な自然環境

現況と課題

本地域は港や海岸等の良好な水辺や日峰山といった自然が身近にあり、日峯大神子広域公園やしおかぜ公園、小松島ステーションパーク等は市民のレクリエーションや憩いの場となっています。

まちづくりワークショップでは、観光資源（日峰山、街並み、水）や港文化（潜在価値）、金長神社、狸文化、阿波花火が地域資源としてあげられましたが、文化芸術が低い、音楽ホールがない等の課題が指摘されています。また、地域の将来像としては、観光名所の活用等が提案されています。

目標

○水と緑豊かな都市景観を市民が支えるまちづくり

風致地区の指定による自然環境の保全と、ゆとりある公園や歩道の整備を進め、それらの公共空間については小松島市土木施設アドプト事業による支援等で、地域の住民や事業所との協働による美化の推進、マナー意識啓発を図り、水と緑豊かな都市景観を地域で支えるまちづくりを推進します。

⑦まちづくりの方針(小松島・南小松島・北小松島・千代地域)

土地利用の方針

◆居住ゾーン・複合機能ゾーン

- 道路や公園等の都市施設の計画的な整備により、安全で快適な住環境の向上を図るとともに、周辺環境との調和に配慮しながら、店舗や事業所の立地を許容し、利便性の高い住宅地の形成を図ります。
- 都市における緑の保全や緑化推進、都市公園の適切な配置等により、緑豊かで自然環境と調和したゆとりある住宅地の形成や防災空間の確保を図ります。また、市街化区域内農地については、良好な都市環境の形成や防災・減災の観点からも、生産緑地制度の活用や田園住居地域の指定等も視野に入れながら、計画的な利用・保全を図ります。
- 学校再編により使用しなくなる校舎や校地については、地域の活性化や南海トラフ巨大地震発災後の仮設住宅の建築場所など、周辺地域の土地利用との調和を図ったうえで、まちづくりに資する有効活用を検討します。
- 津波、洪水、土砂災害など災害の危険性の高いエリアを踏まえて、比較的安全な地域への居住誘導や開発抑制を図るなど適切な土地利用を推進します。
- 空き家、低未利用地については、防災・防犯や移住・定住の促進、中心市街地の活性化などの観点から、空き家バンク等の取組により、その土地及び建物の有効利用を検討し、良好な市街地の形成を図ります。老朽危険空き家については、所有者による適切な管理を促し、除却を支援します。また、倒壊等著しい危険が切迫している特定空き家等については、必要に応じ、行政による代執行を実施し、除却を行います。
- 都市計画道路江田小松島港線沿線の地域(都市計画道路江田小松島港線と県道徳島小松島線の交差点西側の地域)については、十分な土地利用が図られていないため、安全で快適な住環境との調和に配慮しながら、店舗や事業所の立地を許容し、利便性の高い住宅地を形成することによって、土地利用を促進することを目的として、第一種住居地域へ用途地域の変更を行います。

◆中心拠点となる都市機能の集積

- JR 南小松島駅周辺は、快適な市民生活に必要な都市機能(医療、福祉、子育て支援、商業・業務、教育・文化、行政等)のさらなる誘導や集積を促すとともに、人・モノ・情報などの交流を促進し、にぎわいと活力ある中心市街地の形成を図ります。
- 市北部の4小学校を統合し、新小松島小学校(仮称)を南小松島小学校の敷地に整備します。
- 学校再編により学校として使用しなくなる小松島小学校の校舎や校地を活用し、幼稚園及び保育所が一体となった認定こども園の整備を目指すとともに、中央会館の機能移転により複合施設の整備を検討します。

◆医療福祉の充実

- 徳島赤十字病院や発達障がい者総合支援ゾーンなどの医療・福祉の拠点地域等は、適切な用途地域の指定や土地の高度利用等を図るとともに、周辺の住宅地等と連携した魅力ある中心市街地の形成を図ります。

◆工業立地基盤の充実

- 徳島小松島港の臨海地域は、工業の利便性を図るとともに、農林水産業や商業、観光などと連携し、既存産業の活性化や新たな産業の育成と企業誘致を促進します。また、社会経済情勢や産業構造の変化等に対応しながら必要に応じて、用途地域の見直し等を実施し、周辺環境に配慮した計画的な土地利用を図ります。
- 住居系土地利用と工業系土地利用が混在する地域は、住環境、操業環境双方の悪化を招くことのないよう住工分離を促進し、用途地域の見直しを含めた環境の改善を図ります。

◆計画的で秩序ある土地利用

- 国道55号沿道周辺の地域は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、地区計画等の活用により、地域の利便性向上や産業の活性化を図りつつ、津波避難機能を備えた施設を適切に配置することで、計画的で秩序ある安全・安心な土地利用を図ります。

◆特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 小松島 IC (仮称) 周辺の地域は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、物流等の新たな産業が集積する拠点を形成するため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を図ります。

◆集落・特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 日開野町、芝生町周辺(国道55号と都市計画道路芝生日ノ峰線の交差点周辺)は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、良好な住環境の形成や地域の利便性向上、産業の活性化のため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を図ります。

都市施設整備の方針

◆徳島南部自動車道と都市中心拠点の連結

- 徳島南部自動車道の整備を推進し、本市の中心部や徳島小松島港本港地区との連結による中心市街地の活性化や本港地区の機能強化などを図ります。

◆中心市街地の利便性向上と活性化

- 中心部と国道55号を結ぶ「都市計画道路江田小松島港線」と「都市計画道路芝生日ノ峰線」、また、「都市計画道路芝生日ノ峰線」からJR南小松島駅を經由し市役所まで横断する「都市計画道路小松島金磯線」を骨格とした道路ネットワークに徳島南部自動車道・小松島IC（仮称）が連結することにより、都市機能のさらなる集積を図ります。
- 国道55号に小松島IC（仮称）へのアクセス道路となる車線が追加されることから、安全かつ円滑に道路交通を利用できるための施設整備を推進します。

◆物流促進

- 徳島南部自動車道の整備により、広域的な物流を促進し、企業誘致や既存産業の活性化、港湾機能の強化を図ります。

◆交流空間の整備

- 日峯大神子広域公園は、本市と徳島市の両市の区域にわたる広域的なレクリエーション活動の拠点として広く親しまれ、散策や展望などの自然を活かした多様な施設が整備されています。本広域公園のうち、日峯大神子広域公園（脇谷地区）については、施設の老朽化や変化する利用者ニーズへの対応に加え、防災拠点として活用できるよう防災機能を強化し、市民の健康増進、スポーツを通じた交流や地域の歴史・文化の体験学習ができる憩いとやすらぎの場となるよう再整備を推進します。
- 小松島ステーションパークは、あらゆる世代のやすらぎの場となるよう、図書館とステーションパークの一体化やインクルーシブ遊具の整備、スポーツができる場の創出など、施設の整備・改修を推進します。
- 徳島小松島港本港地区については、徳島南部自動車道の整備を見据え、本市の資源である、中心市街地と一体となった公共空間を活かし、子育てに関する機能のほか、スポーツ、音楽、イベントなど様々な活動を楽しみ、歴史・文化を体験、学習することができる機能の集積を図ります。あらゆる世代が集うにぎわいのある空間づくりを進め、人の流れを本港地区と中心市街地に誘導することにより、本港地区と中心市街地の活性化を図ります。

◆安全な歩行者・自転車空間のネットワーク形成

- 子どもから高齢者まで誰もが気軽にまちに出て、安心して生活できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの設置などのバリアフリー化を推進し、安全に利用できる歩行者空間のネットワーク形成を図ります。
- 歩行者・自転車・自動車の安全性と快適性の向上を図るため、国道55号の改修等に併せ、歩行者・自転車の利用が多い区間において、防護柵等の交通安全施設を設置し、自転車歩行者道の整備を推進します。

- JR南小松島駅や徳島小松島港本港地区、小松島ステーションパーク、徳島赤十字病院、JR中田駅などをつなぐ一帯のエリアでは、にぎわいの創出や健康増進、脱炭素社会の実現等の観点から、あらゆる世代が歩きたくなるウォークアブルなまちづくりに向け、徒歩や自転車等による移動環境の整備、公共交通の充実などの取組に努めます。
- 市民の健康づくりや憩い、散策の場として機能するよう「都市計画道路芝生日ノ峰線」や「都市計画道路中田駅新港線」（自転車歩行者専用道路）などは、周辺景観と調和したまちなみづくりに取り組み、魅力ある都市景観の形成を図ります。
- 安全で快適な日常生活や災害時における避難経路を確保するため、狭あい道路等の拡幅を図ります。
- 安全で安心できる交通環境を実現するため、通学路などの危険箇所の改善を図るとともに、ガードレール、カーブミラーなどの交通安全施設の整備を推進します。
- 通学路の安全確保に向けた取り組みを推進するため、教育委員会や警察、道路管理者（国・県・市）などの関係機関が連携し、通学路の安全対策を図ります。

◆港湾機能の強化

- 徳島小松島港本港地区・金磯地区においては、本市の産業や港湾の競争力強化と脱炭素社会の実現のため、環境負荷の軽減やエネルギー効率を考慮した環境整備を国・県・市が連携して推進します。

都市交通の方針

◆学校再編に伴う通学手段の確保

- バス事業者や関係部署と連携し、学校再編に伴う児童の通学手段の確保を図ります。

◆効率的な公共交通ネットワークの形成

- ICTの活用等による情報提供の充実や、効率的なバスと鉄道のネットワークを形成し、乗り継ぎにおける利便性の向上を図ります。

都市防災の方針

◆防災機能を持った広場の整備

- 日峯大神子広域公園（脇谷地区）は、災害における消防・救急車両の集結場所や救援活動拠点となる防災拠点施設としての機能の整備を図ります。
- 防災拠点については、備蓄倉庫、資機材や備蓄食料の充実を図り、大規模災害発生時における応急対策活動の拠点施設としての機能強化を図ります。

◆避難場所の整備

- 避難場所を確保するため、公共施設の積極的な活用や民間施設との連携を図ります。
- 災害時の避難場所や復旧・復興活動の拠点となる公園や緑地の整備を進め、耐震性貯水槽など、防災機能を高める設備の充実を図ります。
- 特定避難困難者の解消のため、津波避難場所の避難可能人数の増加や既存施設を新たな津波避難場所に指定することを検討します。いずれも難しい場合は、新たに津波避難場所の増設を検討します。

◆避難路の整備

- 災害時でも安全で円滑な通行を確保するため、都市計画道路をはじめ、避難場所へ続く道路や迂回路などの避難施設について、道路管理者である国・県・市が連携し、整備を推進します。

◆浸水・土砂災害対策

- 川北地区や金磯地区等において、雨水排水施設の整備を進め、台風や局地的な集中豪雨などによる浸水被害の防止・軽減を図ります。
- 土石流や急傾斜地崩壊等の土砂災害が発生するおそれのある区域は、砂防施設の整備を図ります。

◆河川の防災対策

- 勝浦川については、河川の氾濫、浸水、地震、高潮などの災害に対する安全度を高めるため、徳島県と連携し、徳島県が策定した河川整備計画に基づく河川の改修事業を推進します。

◆緑豊かな自然環境・美しい水辺景観の保全

- 日峯大神子広域公園の緑豊かな自然環境や、金磯海岸などの海岸線の景勝地は、風致地区の指定により、趣のある自然の風景を維持し、緑豊かで落ち着いた住環境の形成を図るとともに、周辺環境の変化等に応じ、指定地区の見直しを図ります。
- 徳島小松島港本港地区の景観を活かし、港湾整備と一体的な特色ある環境・景観づくりを図ります。
- 道路や公園などの公共空間について、美化・緑化などの地域活動を支援し、市民や企業等との協働による良好な景観形成を図ります。

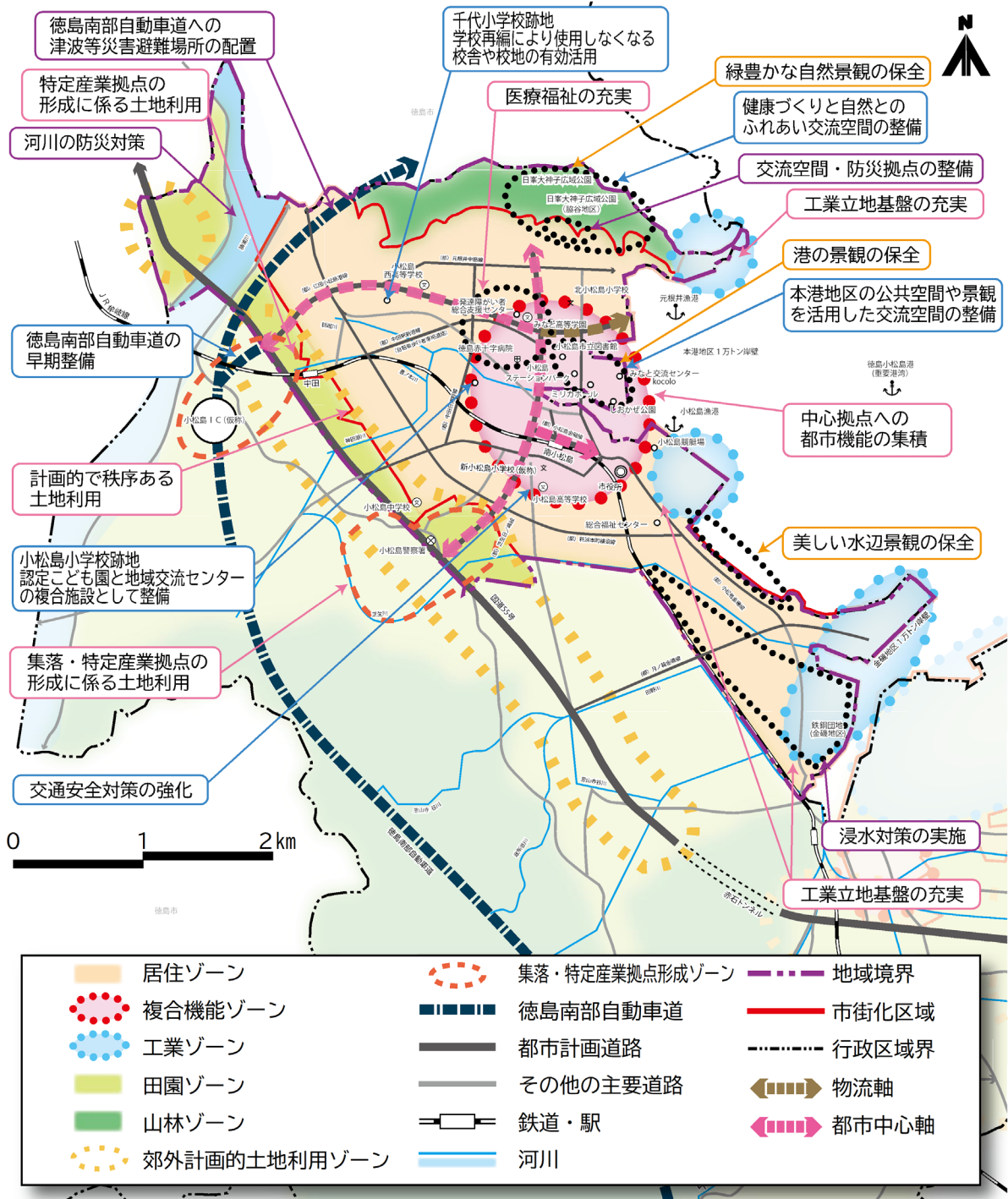
小松島港まつり 花火大会



小松島港まつり 阿波踊り



まちづくり方針図[小松島・南小松島・北小松島・千代地域](令和12年度頃)



⑧取組の概要

土地利用に係る取組の概要

医療福祉の充実

- 徳島赤十字病院や発達障がい者総合支援ゾーンなどの医療・福祉の拠点地域等について、適切な用途地域の指定や土地の高度利用等を推進

計画的で秩序ある土地利用

- 地区計画等の活用により、農業や自然環境との調和を図ったうえで、地域の利便性向上や産業の活性化を推進

工業立地基盤の充実

- 徳島小松島港の臨海地域は、農林水産業や商業、観光などと連携し、既存産業の活性化や新たな産業の育成と企業誘致を促進
- 住居系土地利用と工業系土地利用が混在する地域は、必要に応じて、用途地域の見直し等を実施し、周辺環境に配慮した計画的な土地利用を推進

中心拠点への都市機能の集積

- 徳島小松島港本港地区は、あらゆる世代が集うにぎわいのある空間づくりを進め、人の流れを本港地区と中心市街地に誘導することにより、本港地区と中心市街地の活性化を推進

特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、物流等の新たな産業が集積する拠点を形成するため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を推進

集落・特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、良好な住環境の形成や地域の利便性向上、産業の活性化のため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を推進

都市施設整備に係る取組の概要

千代小学校跡地 学校再編により使用しなくなる校舎や校地の有効活用

- 周辺地域の土地利用との調和を図ったうえで、まちづくりに資する有効活用を検討

健康づくりと自然とのふれあい交流空間の整備

- 日峯大神子広域公園（脇谷地区）は、防災拠点として活用できるよう防災機能を強化し、市民の健康増進、スポーツを通じた交流や地域の歴史・文化の体験学習ができる憩いとやすらぎの場となるよう再整備を推進

本港地区の公共空間や景観を活用した交流空間の整備

- 小松島ステーションパークは、あらゆる世代のやすらぎの場となるよう、図書館とステーションパークの一体化やインクルーシブ遊具の整備、スポーツができる場の創出など、施設の整備・改修を推進

交通安全対策の強化

- 通学路などの危険箇所の改善を図るとともに、ガードレール、カーブミラーなどの交通安全施設の整備を推進

- 教育委員会や警察、道路管理者（国・県・市）などの関係機関と連携し、通学路の安全対策を推進

小松島小学校跡地 認定こども園と地域交流センターの複合施設として整備

- 市北部の4小学校を統合し、新小松島小学校（仮称）を南小松島小学校の敷地に整備
- 学校再編により学校として使用しなくなる小松島小学校の校舎や校地を活用し、幼稚園及び保育所が一体となった認定こども園の整備を検討
- 中央会館の機能移転により複合施設の整備を検討

徳島南部自動車道の早期整備

- 都市中心部や徳島小松島港本港地区との連結による中心市街地の活性化や本港地区の機能強化等を図るため、徳島南部自動車道の早期整備を推進

都市防災に係る取組の概要

交流空間・防災拠点の整備

- 日峯大神子広域公園（脇谷地区）は、防災拠点として活用できるよう防災機能を強化し、市民の健康増進、スポーツを通じた交流や地域の歴史・文化の体験学習ができる憩いとやすらぎの場となるよう再整備を推進

浸水対策の実施

- 雨水排水施設の整備を進め、台風や局地的な集中豪雨などによる浸水被害の防止・軽減を推進

河川の防災対策

- 河川の氾濫、浸水、地震、高潮などの災害に対する安全度を高めるため、徳島県と連携し、河川整備計画に基づく河川の改修事業を推進

徳島南部自動車道への津波等災害避難場所の配置

- 国及び県と連携し、徳島南部自動車道の道路管理用施設等を活用した、津波等の災害避難場所の確保と整備について検討

都市景観に係る取組の概要

緑豊かな自然景観の保全

- 風致地区の指定により、趣のある自然の風景を維持し、緑豊かで落ち着いた住環境の形成を図るとともに、周辺環境の変化等に応じ、指定地区の見直しを推進
- 道路や公園などの公共空間について、美化・緑化などの地域活動を支援し、協働による良好な景観形成を推進

港の景観の保全

- 徳島小松島港本港地区の景観を活かし、港湾整備と一体的な個性ある環境・景観づくりを推進

美しい水辺景観の保全

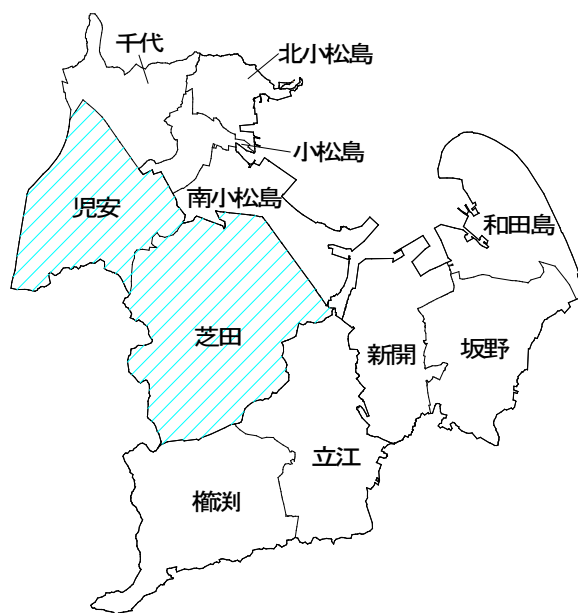
- 風致地区の指定により、美しい海岸線等の趣のある自然の風景を維持し、周辺環境の変化等に応じ、指定地区の見直しを推進

2) 児安・芝田地域のまちづくり

①地域の概要(児安・芝田地域)

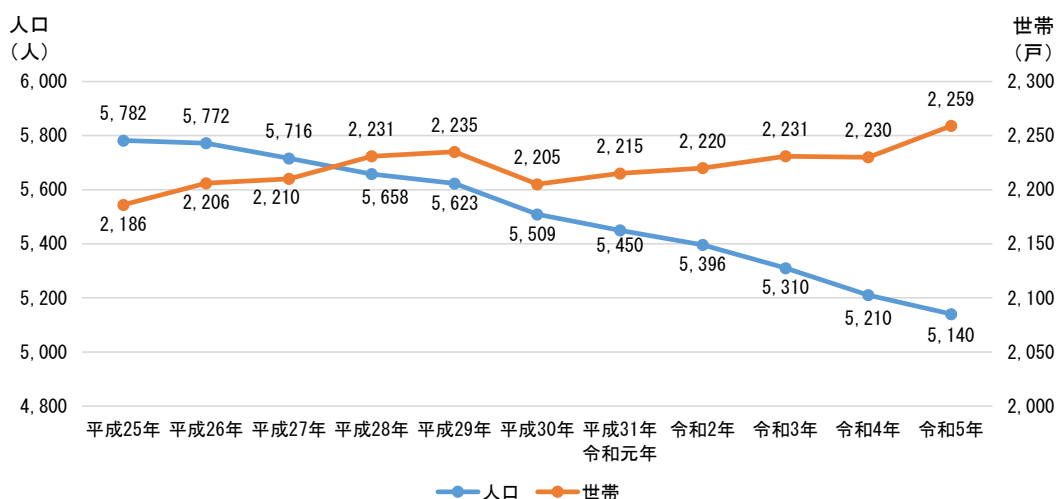
- 「児安小学校区」、「芝田小学校区」の2つの小学校区で構成します。
- 本市の西部に位置し、徳島市と接しています。
- 地形は、本地域の中央部から北部にかけて平地となっており、南西部は丘陵地帯となっています。

地域の位置等



- 本地域の人口は、減少傾向にあり、世帯数は、ほぼ横ばいの傾向となっています。

地域の人口・世帯

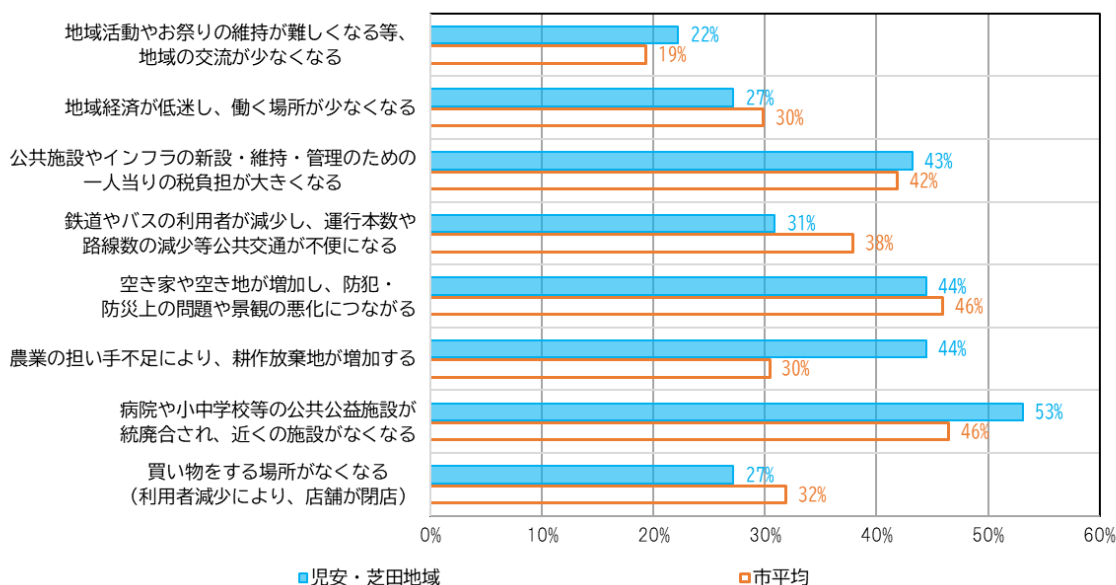


出典:住民基本台帳より集計

②市民の意向

- 市民アンケート調査結果によると、人口減少・少子高齢化による懸念事項として、「病院や小中学校等の公共公益施設が統廃合され、近くの施設がなくなる」という回答が最も多く、市平均を上回っています。また、「地域活動やお祭りの維持が難しくなる等、地域の交流が少なくなる」という回答が最も少なくなっています。

市民アンケート結果 人口減少、少子高齢化によるまちづくりへの影響として心配すること（複数回答可）



③土地利用

- 本地域の全域が市街化調整区域に指定されており、農地や山林等の自然的土地利用が大部分を占めています。
- 平地では、集団的な農地が広がっているほか、まとまりのある住宅地が点在しています。
- 国道55号の沿道の一部では、商業施設等が一定数立地しています。

④都市施設

- 国道55号、主要地方道小松島佐那河内線、一般県道宮倉徳島線等が本地域内を通っています。
- 公共下水道施設（雨水処理）は、勢合雨水ポンプ場が供用されています。

⑤まちづくりワークショップの結果概要（児安・芝田地域）

まちづくりワークショップの結果より、児安・芝田地域の主な意見やアイデアを集約し、分類ごとにまとめたところ、次のとおりとなっています。

地域の資源

◆施設

「歴史と伝統（神社4社（田浦）、子安観音塚古墳等）」

◆産業

「小松島ブランドの育成」「農産品（お米・みかん・おくら等）」

◆自然

「きれいな地下水」「田園風景」「竹林」

◆イベント・文化

「義経ドリームロード」「天王社稚児三番叟」

地域の課題

◆都市基盤

「道路の幅員が狭い」

「児安小学校への安全な通学路の整備」「公共交通機関がない」

「耕作放棄地を農地以外に有効利用」「小河川の流れが悪い」

◆産業

「コンビニはあるがスーパーがない」

◆防災

「大雨時に道路が通行止めになる」

◆コミュニティ

「空き家が多い」

地域の将来像

◆都市基盤

「スクールバスを充実させ通学の安全を徹底」

「公園の整備（避難路・展望台等）」

◆自然

「静かな田園風景を残す」「自然を活用したホテルの住むまちづくり」

◆イベント・コミュニティ

「義経ドリームロードの活用」

「学校跡地等の、使わなくなった土地を活用し、観光資源を創出（野菜・果物等）」「移動スーパーや乗合いバス等を活用し、外出が難しい方への支援充実」

◆産業

「農業を支える若い人を増やす工夫がほしい」

◆防災

「防災公園の整備」「市役所や消防本部を安全な地域に移転」

⑥まちづくりの目標（児安・芝田地域）

全体構想における位置づけや地域の現況・特性、まちづくりワークショップの結果等を踏まえ、児安・芝田地域のまちづくりの目標を次のように設定します。

○農業と調和した暮らし

現況と課題

本地域は全域が市街化調整区域であり、ほ場整備された優良農地が広がり、一般県道沿い等に田園集落が形成されています。

まちづくりワークショップでは、小松島ブランドの育成、農産品（お米・みかん・おくら等）や田園風景等が地域資源としてあげられましたが、耕作放棄地の有効利用や、コンビニはあるがスーパーがないといった課題も指摘されています。また、地域の将来像として、農業を支える若い人を増やす工夫がほしい、静かな田園風景を残すことなどが提案されています。

目標

○担い手が育ち農業と調和する田園居住型のまちづくり

地域の主要な産業である農業の活性化を促進するとともに、農業の担い手への農地の集積・集約化の推進により耕作利用率を高めるなど、耕作放棄地の発生防止・解消等に努め、農業との健全な調和を図ったうえで、良好な住環境の形成やコミュニティ維持を図ります。

○交通環境の改善

現況と課題

本地域には広域幹線道路である国道55号が整備されていますが、田園集落を繋ぐ生活道路は幅員が狭く、歩道はほとんどありません。また、鉄道駅から離れているため、公共交通機関は路線バスやタクシーに限られています。

まちづくりワークショップでは、地域の課題として道路の幅員が狭い、道路の整備歩道が少ない、児安小学校への安全な通学路の整備や公共交通機関がないこと等の指摘がされています。また、地域の将来像としてスクールバスを充実させ通学の安全を徹底、移動スーパーや乗合いバスなど、外出が難しい方への支援充実等が提案されています。

目標

○人にやさしく安全な交通環境を形成するまちづくり

児童の通学路等の危険箇所については、通学路交通安全プログラムに基づき、点検・対策を継続的に実施します。また、市道等の通行危険箇所においては、ガードレール、カーブミラー等の交通安全対策施設について、継続的な整備や狭あい道路の改善を図るとともに、公共交通との連携により中心拠点等との交流を促し、人にやさしい交通環境の形成を図ります。

○治水安全度の向上や防災対策

現況と課題

本地域は勝浦川や田野川等の河川を有し、農地には排水路が張り巡らされているなど、豊富な水資源に支えられた地域です。

まちづくりワークショップでは、きれいな地下水等が地域資源としてあげられましたが、小河川の流れが悪い、大雨時に道路が通行止めになるなどの課題が指摘されています。また、地域の将来像として、防災公園の整備のほか、市役所や消防本部を安全な地域への移設等の提案がされています。

目標

○防災対策（水災害、土砂災害等）により、安心して暮らせるまちづくり

河川整備計画に基づく河川改修等の治水対策を進め、洪水等による浸水や土砂災害等の大規模災害による被害が予想される地域への市街地拡散・住宅等の立地を抑制するとともに、特に危険性が高い地域については住宅等の移転を促進するなど、より安全度の高い場所への住宅等の誘導を進めることで、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

○観光・地域資源の活用

現況と課題

本地域は、田園等の農地や里山といった豊かな自然環境を有しており、また旗山や恩山寺等の歴史的資源もあります。

まちづくりワークショップでは、歴史と伝統（神社4社（田浦）、子安観音塚古墳等）、義経ドリームロードや天王社稚児三番叟等が地域資源としてあげられ、地域の将来像として自然を活用したホテルの住むまちづくり、義経ドリームロードの活用等が提案されています。

目標

○自然・歴史・風景を守り育むまちづくり

周辺環境と調和した景観づくりに配慮し、風致地区をはじめとした良好な自然環境の維持保全や遍路道、義経ドリームロード等の歴史的資源の活用を図ります。

⑦まちづくりの方針(児安・芝田地域)

土地利用の方針

◆優良農地の保全

- 平野部に広がる優良農地は、ほ場整備や農業水利施設等の整備により農業生産性の向上や農業経営の安定を図り、地域産業の活性化を促進します。

◆田園居住地の生活基盤整備

- 田園集落などの地域は、既存集落と自然が育む環境を大切にし、農業生産性の向上に向けた環境整備を進めることを基本にしながら、良好な住環境の形成や地域コミュニティ維持のため、農業との健全な調和を図ったうえで、道路等の生活基盤の整備や空き家対策を実施します。

◆計画的で秩序ある土地利用

- 国道55号沿道周辺の地域は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、地区計画等の活用により、地域の利便性向上や産業の活性化を図りつつ、津波避難機能を備えた施設を適正に配置することで、計画的で秩序ある安全・安心な土地利用を図ります。

◆学校再編に伴う土地利用

- 学校再編により使用しなくなる校舎や校地については、周辺地域との調和を図ったうえで、まちづくりに資する有効活用を検討します。

◆特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 小松島 IC(仮称)周辺の地域は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、物流等の新たな産業が集積する拠点を形成するため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を図ります。

◆集落・特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 日開野町、芝生町周辺(国道55号と都市計画道路芝生日ノ峰線の交差点周辺)は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、良好な住環境の形成や地域の利便性向上、産業の活性化のため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を図ります。

都市施設整備の方針

◆徳島南部自動車道と都市中心拠点の連結

- 徳島南部自動車道の整備を推進し、本市の中心部や徳島小松島港本港地区との連結による中心市街地の活性化や本港地区の機能強化などを図ります。

◆交通安全対策の強化

- 安全で快適な日常生活や災害時における避難経路を確保するため、狭あい道路等の拡幅を図ります。
- 安全で安心できる交通環境を実現するため、主要地方道小松島佐那河内線の通学路などの危険箇所の改善を図るとともに、ガードレール、カーブミラーなどの交通安全施設の整備を推進します。
- 通学路の安全確保に向けた取組みを推進するため、教育委員会や警察、道路管理者（国、県、市）などの関係機関が連携し、通学路の安全対策を図ります。

都市交通の方針

◆学校再編に伴う通学手段の確保

- バス事業者や関係部署と連携し、学校再編に伴う児童の通学手段の確保を図ります。

◆効率的な公共交通ネットワークの形成

- ICTの活用等による情報提供の充実や、効率的なバスと鉄道のネットワークを形成し、乗り継ぎにおける利便性の向上を図ります。

都市防災の方針

◆河川の防災対策

- 河川の氾濫、浸水などの災害に対する安全度を高めるため、徳島県と連携し、河川整備計画に基づく河川の改修事業を推進します。

◆自然と歴史を活かした散策ゾーンの形成

- 旗山や恩山寺周辺の趣のある自然環境を形成している地域は、風致地区の指定により、趣のある自然の風景を維持し、緑豊かで落ち着いた住環境の形成を図るとともに、周辺環境の変化等に応じ、指定地区の見直しを図ります。
- 市民生活にうるおいをもたらす緑地資源として、緑豊かな自然環境や緑広がる田園風景など、魅力ある景観を保全するとともに、旗山や恩山寺、義経ドリームロードなどの歴史的建造物や史跡の資源は、周辺環境に配慮しながら保全を図り、緑豊かな美しい自然景観と歴史的景観を活用した観光・交流のまちづくりを推進します。

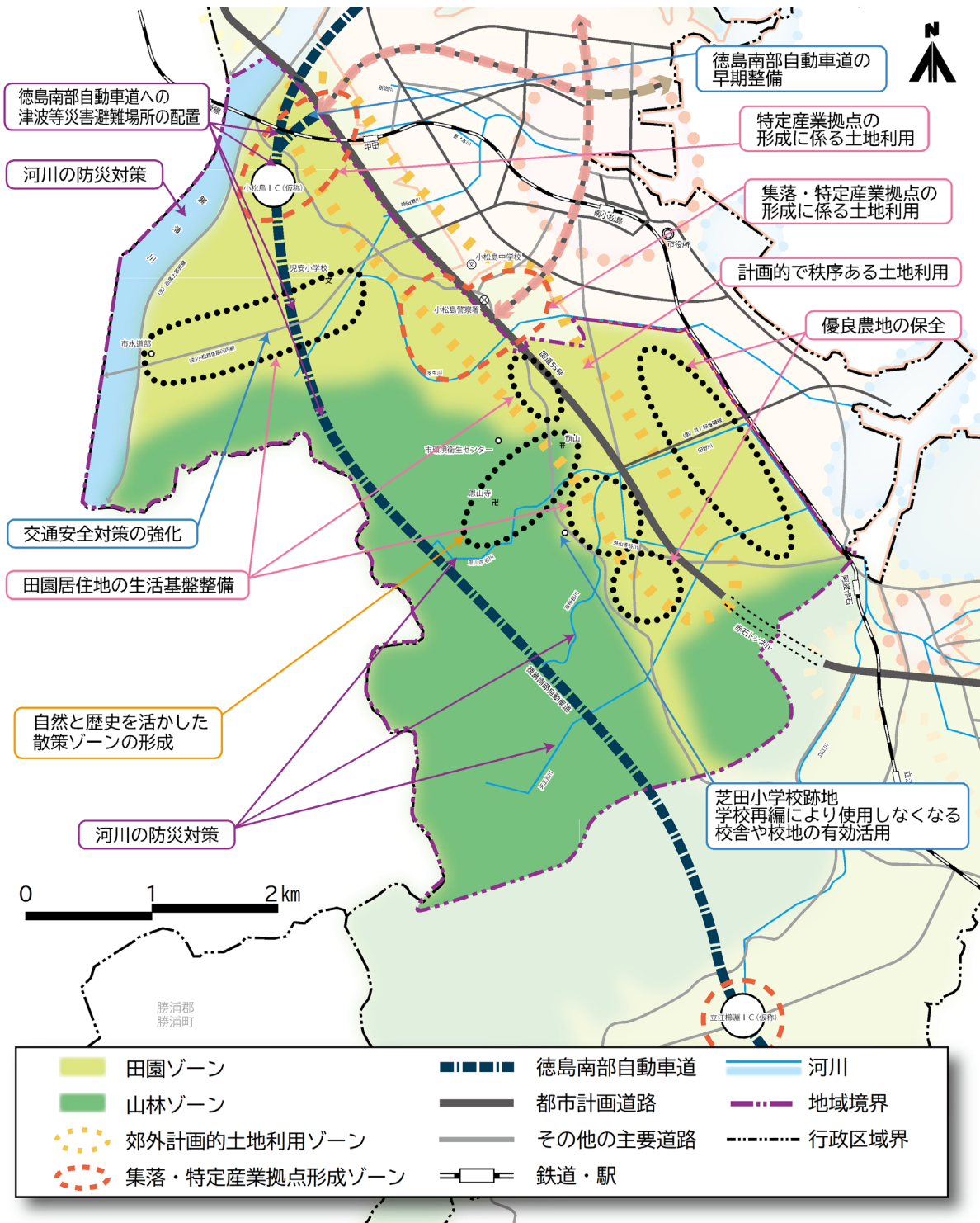
お遍路さん(四国八十八ヶ所霊場第18番札所恩山寺周辺)



源義経 騎馬像【芝生町】



まちづくり方針図〔児安・芝田地域〕（令和12年度頃）



⑧取組の概要

土地利用に係る取組の概要

計画的で秩序ある土地利用

- 地区計画等の活用により、農業や自然環境との調和を図ったうえで、地域の利便性向上や産業の活性化を推進

優良農地の保全

- ほ場整備や農業水利施設等の整備により、地域産業の活性化を促進

田園居住地の生活基盤整備

- 良好な住環境の形成や地域コミュニティ維持のため、農業との健全な調和を図ったうえで、道路等の生活基盤の整備を推進

特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、物流等の新たな産業が集積する拠点を形成するため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を推進

集落・特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、良好な住環境の形成や地域の利便性向上、産業の活性化のため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を推進

都市施設整備に係る取組の概要

徳島南部自動車道の早期整備

- 徳島市、小松島市、阿南市の渋滞緩和や県内外との広域の連携強化を図るほか、災害時における広域交通ネットワークの確保等に向けて、早期整備を推進

芝田小学校跡地 学校再編により使用しなくなる校舎や校地の有効活用

- 学校再編により使用しなくなる校舎や校地については、周辺地域との調和を図ったうえで、まちづくりに資する有効活用を検討

交通安全対策の強化

- 通学路などの危険箇所の改善を図るとともに、ガードレール、カーブミラーなどの交通安全施設の整備を推進
- 狭あい道路等の拡幅を図り、安全で快適な日常生活や災害時における避難経路を確保

都市防災に係る取組の概要

河川の防災対策

- 徳島県と連携し、河川整備計画に基づく河川の改修事業を推進

徳島南部自動車道への津波等災害避難場所の配置

- 国及び県と連携し、徳島南部自動車道の道路管理用施設等を活用した、津波等の災害避難場所の確保と整備について検討

都市景観に係る取組の概要

自然と歴史を活かした散策ゾーンの形成

- 風致地区の指定により、旗山や恩山寺周辺の趣のある自然の風景を維持し、緑豊かで落ち着いた住環境の形成を図るとともに、周辺環境の変化等に応じ、指定地区の見直しを推進
- 旗山や恩山寺、義経ドリームロードなどの歴史的建造物や史跡の資源の保全を図り、美しい自然と歴史的景観を活用した観光・交流のまちづくりを推進

3) 坂野・和田島・新開地域のまちづくり

①地域の概要(坂野・和田島・新開地域)

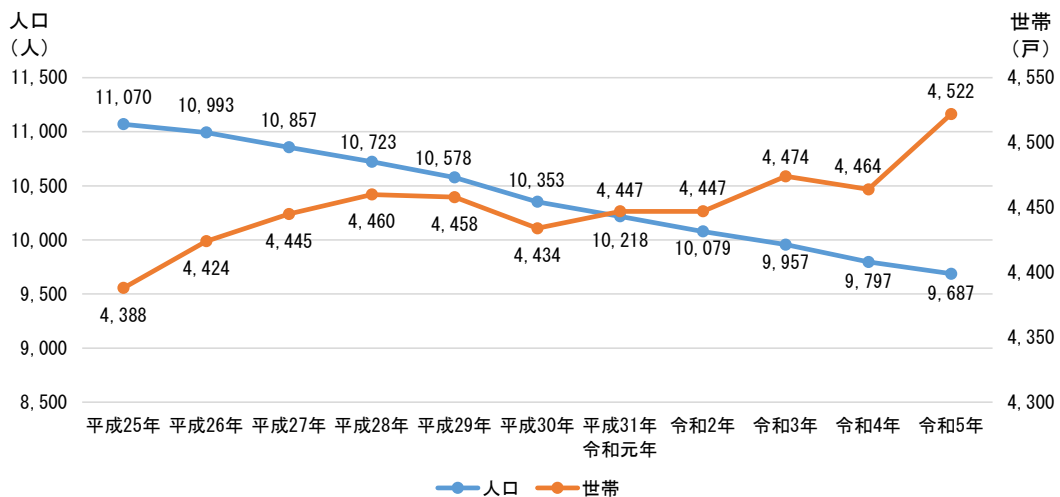
- 「坂野小学校区」、「和田島小学校区」、「新開小学校区」の3つの小学校区で構成します。
- 本市の東部に位置し、阿南市と接しています。
- 地形は、全域が平地となっており、北部に海岸部を有しています。

地域の位置等



- 市全体の人口の推移と同様に、本地域においても人口減少が続いています。

地域の人口・世帯

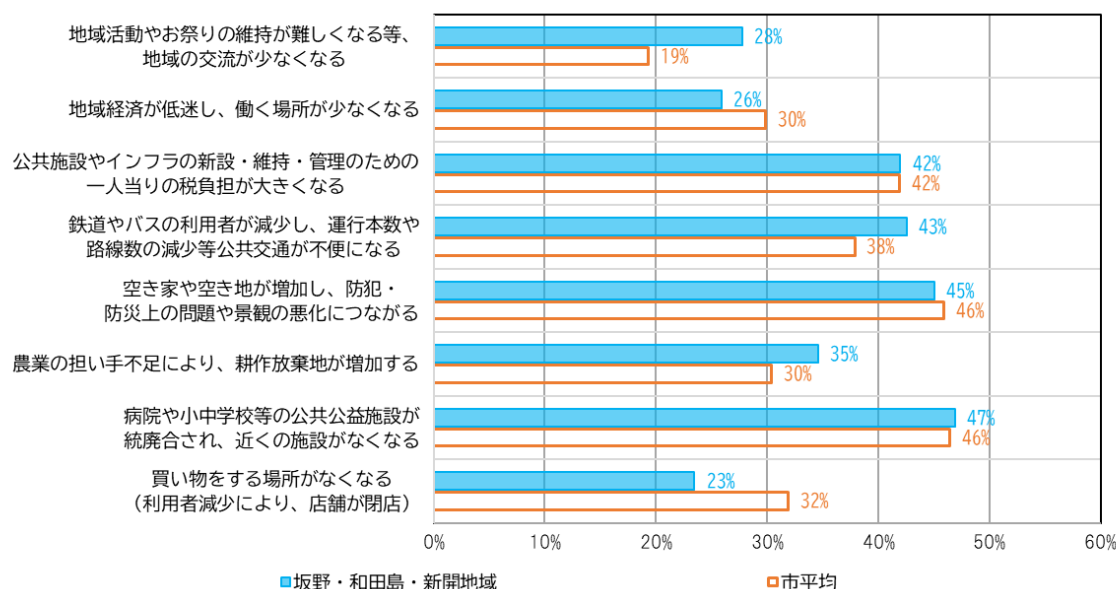


出典：住民基本台帳より集計

②市民の意向

- 市民アンケート調査結果によると、人口減少・少子高齢化による懸念事項として、「病院や小中学校等の公共公益施設が統廃合され、近くの施設がなくなる」という回答が最も多く、市平均を上回っています。また、「買い物をする場所がなくなる（利用者減少により、店舗が閉店）」という回答が最も少なく、市平均を下回っています。

市民アンケート結果 人口減少、少子高齢化によるまちづくりへの影響として心配すること（複数回答可）



③土地利用

- 沿岸部を主体に市街化区域が指定され、その他は市街化調整区域に指定されています。
- 市街化区域では、港湾部において工業系用途地域が指定され、JR阿波赤石駅に近接する大林町周辺については、商業系用途地域または住居系用途地域が指定されています。
- 市街化調整区域では、集団的な農地が広がっているほか、まとまりのある住宅地が点在しています。

④都市施設

- 国道55号、国道55号阿南道路が通り、そのほかの主要な道路として、一般県道和田島赤石線、一般県道徳島小松島線、一般県道坂野羽ノ浦線等が通っています。
- 主要な公園・緑地として、あいさい緑地が整備されています。

⑤まちづくりワークショップの結果概要(坂野・和田島・新開地域)

まちづくりワークショップの結果より、坂野・和田島・新開地域の主な意見やアイデアを集約し、分類ごとにまとめたところ、次のとおりとなっています。

地域の資源

◆施設

「小松島港赤石埠頭」「国道55号バイパス」「マリーナ」「海上自衛隊」
「春日神社」「和田島緑地(グラウンド、野球場)」

◆産業

「海産物(しらす、わかめ等)」「農産物(キュウリ、トマト等)」

◆自然

「田園風景」「海岸からの景色」「灯台のある風景」「砂浜」

◆イベント・文化

「マラソン大会」「釣り」「サップ、カヤック」

地域の課題

◆都市基盤

「道幅が狭い」「坂野町がバイパスで分断されている」「バスがない」
「車がないと外出が不自由」「下水道の整備」「医療拠点が少ない」

◆産業

「買い物できる店が少ない」

◆防災

「避難所が少ない」「防災対策整備がまだまだ必要」「街灯が少ない」
「二級河川(3本)浸水への対策」

◆コミュニティ

「少子高齢化」「子育て支援がない」
「神社・消防団等地域の担い手不足」

地域の将来像

◆都市基盤

「公園・広場をつくる」「交通機関の整備」
「休耕地利用、中学校等の土地を有効活用」
「新小学校周辺への複合化または集約(消防団集、会所等)」

◆自然

なし

◆イベント・コミュニティ

「高齢期になっても地域で助け合える体制の構築」
「5万人のコンサートができる広場」「アイランドリーグ」

◆産業

「農業の法人化」「移住者へのアピール・就労」
「企業・専門学校などの誘致」

◆防災

「津波が来ても安心して住めるまち」

⑥まちづくりの目標（坂野・和田島・新開地域）

全体構想における位置づけや地域の現況・特性、まちづくりワークショップの結果等を踏まえ、坂野・和田島・新開地域のまちづくりの目標を次のように設定します。

○商業・業務機能の充実

現況と課題

本地域は沿岸部が市街化区域に指定され、商店や住宅、工場が立地しています。特に国道55号沿道では阿南市等の、県南地域との交通の要衝として、商業施設の立地が進んでいます。

まちづくりワークショップでは、国道55号バイパスがあり、交通の利便等が資源としてあげられています。また、坂野町がバイパスで分断されている、医療拠点が無い等の課題が指摘されています。地域の将来像として企業・専門学校を誘致することが提案されています。

目標

○地域の拠点となる都市機能の集積を図るまちづくり

JR阿波赤石駅から国道55号と一般県道徳島小松島線の交差点周辺までの地域は、南部生活拠点として商業・業務等の都市機能のさらなる集積を図ります。

○農業・漁業と調和した暮らし

現況と課題

本地域では、港湾からの輸送路となる一般県道大京原今津浦和田津線等の幹線道路が整備され、交通の円滑化が図られつつありますが、点在する田園集落や漁業集落周辺には狭い道路が多く残っています。

まちづくりワークショップでは、生活道路が狭いことや、バスがない、車がないと外出が不自由、少子高齢化や子育て支援がない等の課題を指摘されています。また、地域の将来像として交通機関の整備、高齢期になっても地域で助け合える体制の構築等が提案されています。

目標

○農業や漁業と調和しつつ公共交通サービスの充実した快適な住環境を形成するまちづくり

農業や漁業の環境に配慮しながら、良好な住環境の形成やコミュニティ維持を図るとともに、狭い生活道路の改善や交通安全対策の実施、市民の移動ニーズに応じた使いやすさやわかりやすい公共交通サービスを提供することで、通勤・通学利便性の向上や高齢者の外出支援を実現するなど、公共交通を利用した快適な移動ができるまちづくりを目指します。

○港湾の有効活用と産業の振興

現況と課題

本地域の徳島小松島港赤石地区公共埠頭には近年、コンテナターミナルが整備されるなど、沿岸部の工業地域における利便性向上が図られています。また、和田島漁港を拠点とする漁業や、広大な平野を活かした農業が地域の重要な産業となっています。

まちづくりワークショップでは、地域資源として小松島港赤石埠頭、マリーナ、海産物（しらす、わかめ等）や農産物（キュウリ、トマト等）があげられていますが、課題として買い物できる店が少ないことが指摘されています。また、地域の将来像として農業の法人化、移住者へのアピール・就労等が提案されています。

目標

○港湾の利用増進と地域産業の活性化を促進するまちづくり

港湾施設の利用増進や地場産品を活かした農林漁業の地場産品の販売促進につながるPR活動等のソフト対策と連携し、道路等の基盤施設整備を進め、地域産業の活性化を促進します。

○防災対策（地震・津波・洪水等）に対する安全性の確保

現況と課題

本地域は、海岸部に接した平野部が大部分を占め、地震・津波に対する災害に対する安全性が懸念されています。

まちづくりワークショップでは、地域の課題として避難所が少ない、防災対策整備がまだまだ必要、街灯が少ない、二級河川（立江川水系、太田川水系、那賀川水系）への浸水対策等の指摘があり、地域の将来像として新小学校周辺への複合化または集約（消防団、集会所等）、津波が来ても安心して住めるまち等が提案されています。

目標

○地震・津波・洪水等の災害に強く安心して暮らせるまちづくり

耐震岸壁や緑地が整備されている徳島小松島港赤石地区公共埠頭周辺の機能強化や、あいさい緑地（和田島緑地）等の防災拠点機能の強化を図り、避難路等となる道路整備に加え、高台への避難に相当な時間を要する地域については、新たな避難施設の整備を進め、災害に強く安心して暮らせるまちづくりを推進します。

⑦まちづくりの方針(坂野・和田島・新開地域)

土地利用の方針

◆居住ゾーン

- JR阿波赤石駅周辺や小松島ニュータウンの住宅地などは、道路や下水道等の都市施設の計画的な整備や維持管理により、安全で快適な住環境の向上を図るとともに、周辺環境との調和に配慮しながら、店舗や事業所の立地を許容し、利便性の高い住宅地の形成を図ります。
- 津波浸水想定を踏まえ、用途地域の見直し等を実施し、災害に強い安全・安心な住宅地の形成を図ります。
- 都市における緑の保全や緑化推進、都市公園の適切な配置等により、緑豊かで自然環境と調和したゆとりある住宅地の形成や防災空間の確保を図るとともに、市街化区域内農地については、良好な都市環境の形成や防災・減災の観点からも、保全を視野に入れながら、計画的な利用を図ります。
- 空き家、低未利用地については、防災・防犯や移住・定住の促進、市街地の活性化などの観点から、空き家バンク等の取組により、その土地及び建物の有効利用を検討し、良好な住宅地の形成を図ります。老朽危険空き家については、所有者による適切な管理を促し、除却を支援します。また、倒壊等著しい危険が切迫している特定空き家等については、必要に応じ、行政による代執行を実施し、除却を行います。

◆都市的土地利用の可能性を検討するゾーン

- 都市機能の集積により、快適な住環境の形成が見込まれることから、市街化区域への編入も含め、都市的土地利用の可能性について検討します。

◆地域の拠点となる都市機能の集積

- JR阿波赤石駅周辺は、快適な市民生活に必要な都市機能(医療、福祉、子育て支援、商業・業務、教育・文化、行政など)のさらなる集積を促し、地域の利便性の向上を図ります。
- 市南部の4小学校を統合した新小松島南小学校(仮称)の開校(新開小学校敷地)に向け、整備を推進します。

◆工業立地基盤の充実

- 徳島小松島港の臨海地域は、赤石地区に整備されたコンテナターミナルの活用による物流促進など工業の利便性を図るとともに、農林水産業や商業、観光などと連携し、漁港も含めた港湾部に立地する既存産業の活性化や新たな産業の育成と企業誘致を促進します。また、社会経済情勢や産業構造の変化等に対応しながら必要に応じて、用途地域の見直し等を実施し、周辺環境に配慮した計画的な土地利用を図ります。

◆優良農地の保全

- 平野部に広がる優良農地は、ほ場整備や農業水利施設等の整備により農業生産性の向上や農業経営の安定を図り、地域産業の活性化を促進します。

◆特定産業拠点の強化に係る土地利用

- 漁業、水産加工業等の産業の維持・発展のため、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、必要な生活基盤の整備を図ります。

◆田園居住地の生活基盤整備

- 農業集落や漁業集落などの地域は、既存集落と自然が育む環境を大切に、農業・漁業生産性の向上に向けた環境整備を進めることを基本としながら、良好な住環境の形成や地域コミュニティ維持のため、農業・漁業との健全な調和を図ったうえで、道路等の施設整備や空き家対策を実施します。

◆計画的で秩序ある土地利用

- 国道55号沿道周辺の地域は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、地区計画等の活用により、地域の利便性向上や産業の活性化を図りつつ、津波避難機能を備えた施設を適切に配置することで、計画的で秩序ある安全・安心な土地利用を図ります。

◆学校再編に伴う土地利用

- 学校再編により使用しなくなる校舎や校地については、周辺地域との調和を図ったうえで、まちづくりに資する有効活用を検討します。
- 津波、洪水、土砂災害など災害の危険性の高いエリアを踏まえて、比較的安全な地域への居住誘導や開発抑制を図るなど適切な土地利用を推進します。

都市施設整備の方針

◆物流促進と地域間の連携

- 国道55号と徳島小松島港赤石地区を結ぶ「一般県道大京原今津浦和田津線」、「一般県道坂野羽ノ浦線」を骨格として、漁港も含めた港湾部との物流の促進による港湾機能の強化を図り、既存産業の活性化や新たな産業の育成と企業誘致を促進します。

◆通学路の安全確保

- 安全で快適な日常生活や災害時における避難路等を確保するため、狭あい道路等の拡幅を図ります。
- 安全で安心できる交通環境を実現するため、通学路などの危険箇所の改善を図るとともに、ガードレール、カーブミラーなどの交通安全施設の整備を推進します。
- 通学路の安全確保に向けた取組みを推進するため、教育委員会や警察、道路管理者（国・県・市）などの関係機関が連携し、通学路の安全対策を図ります。

◆緑地を活用した健康づくりと交流空間の形成

- 和田島緑地などの公園・緑地は、市民の健康づくりや憩い、交流の場、また生活にうるおいをあたえる自然とのふれあいの場として、保全・整備を進め、快適な住環境の形成を図ります。

◆港湾機能の強化

- 徳島小松島港赤石地区においては、本市の産業や港湾の競争力強化と脱炭素社会の実現のため、環境負荷の軽減やエネルギー効率を考慮した環境整備を国・県・市が連携して推進します。

都市交通の方針

◆学校再編に伴う通学手段の確保

- バス事業者や関係部署と連携し、学校再編に伴う児童の通学手段の確保を図ります。

◆効率的な公共交通ネットワークの形成

- ICTの活用等による情報提供の充実や、効率的なバスと鉄道のネットワークを形成し、乗り継ぎにおける利便性の向上を図ります。

◆市民の移動ニーズに対応した交通モードの再構築

- 公共交通空白地域に配慮した新たな交通モード（デマンド交通等）の導入を検討します。

都市防災の方針

◆防災拠点の整備

- 耐震強化岸壁や緑地等が整備されている徳島小松島港赤石地区については、防災拠点として、災害時に避難場所や復旧・復興拠点となるよう、さらなる防災機能の強化を図ります。
- 防災拠点については、備蓄倉庫、資機材や備蓄食料の充実を図り、大規模災害発生時における応急対策活動の拠点施設としての機能強化を図ります。

◆避難場所の整備

- 避難場所を確保するため、公共施設の積極的な活用や民間施設との連携を図るとともに、既存施設の改築・改修等により、避難機能を備えた施設の整備を推進します。
- 災害時の避難場所や復旧・復興拠点となる公園や緑地の整備を進め、耐震性貯水槽など、防災機能を高める設備の充実を図ります。

◆避難路の整備

- 災害時でも安全で円滑な通行を確保するため、避難場所に続く道路や迂回路などの避難路等について、道路管理者である国・県・市が連携し、整備を推進します。

◆海岸保全施設の整備

- 防波堤などの海岸保全施設は、高潮による浸水対策はもとより、津波発生時においても施設の効果が発揮できるよう、国・県・市が連携し整備を図ります。

◆雨水ポンプ場の整備

- 小松島飛行場周辺の浸水被害の抜本的な解消を図るため、雨水ポンプ場の整備を推進します。

◆特定避難困難者の解消

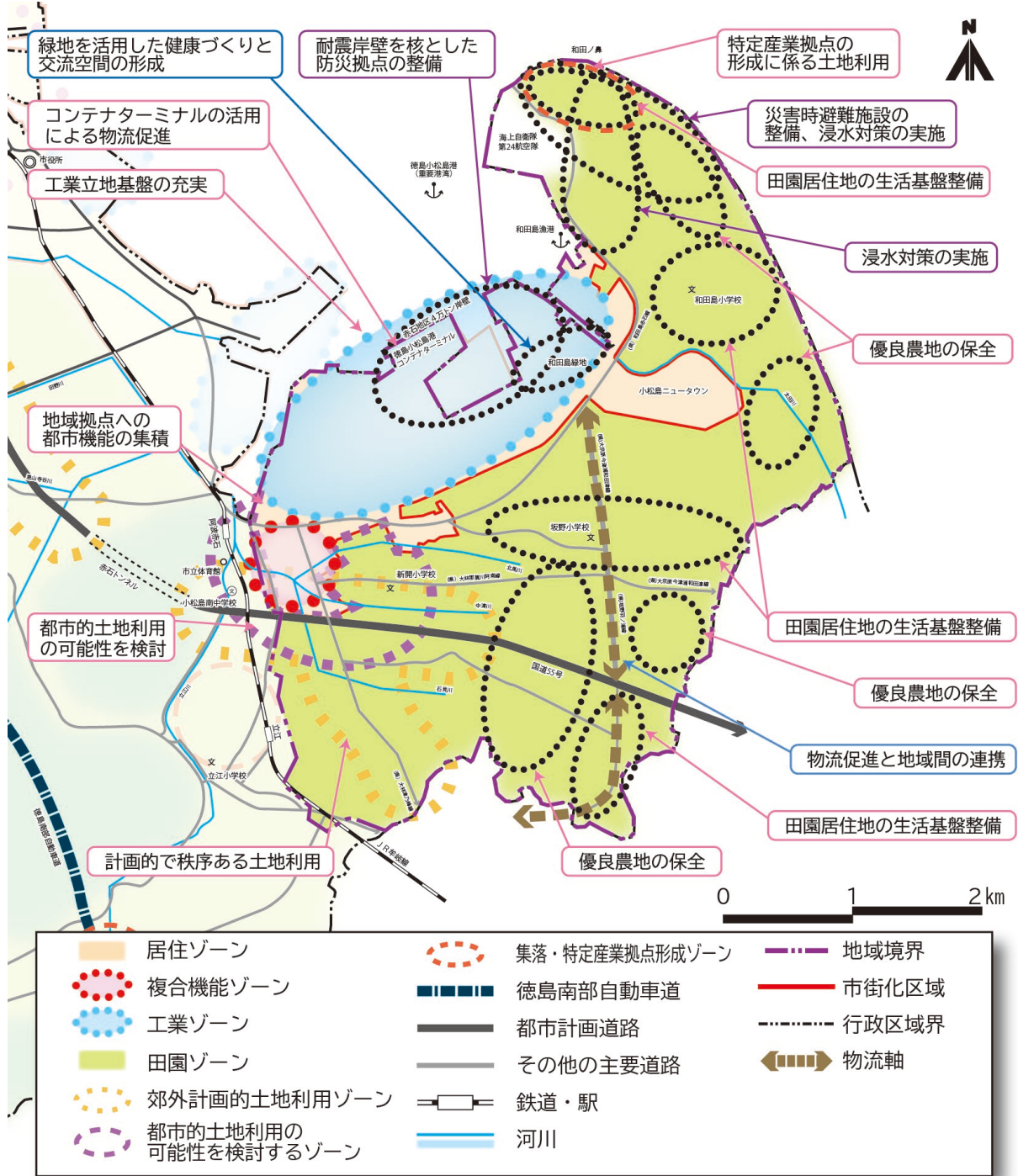
- 特定避難困難者の解消のため、津波避難場所の避難可能人数の増加や既存施設を新たな津波避難場所に指定することを検討し、いずれも難しい場合は新たに津波避難場所の増設を検討します。

都市景観の方針

◆美しい海岸景観の保全

- 今津坂野海岸などの景勝地や緑広がる田園風景など魅力ある景観の保全を図ります。

まちづくり方針図 [坂野・和田島・新開地域] (令和12年度頃)



⑧取組の概要

土地利用に係る取組の概要

優良農地の保全

- ほ場整備や農業水利施設等の整備により、地域産業の活性化を促進

田園居住地の生活基盤整備

- 良好な住環境の形成や地域コミュニティ維持のため、農業・漁業との健全な調和を図ったうえで、道路等の施設整備や空き家対策の実施、地区計画等の活用を推進

計画的で秩序ある土地利用

- 地区計画等の活用により、農業や自然環境との調和を図ったうえで、地域の利便性向上や産業の活性化を推進

都市的土地利用の可能性を検討

- 都市機能の集積により、快適な住環境の形成が見込まれることから、市街化区域への編入も含め、都市的土地利用の可能性について検討

地域拠点への都市機能の集積

- 市民生活に必要な都市機能のさらなる集積を促し、地域の利便性の向上を推進
- 市南部の4小学校を統合した新小松島南小学校(仮称)の開校(新開小学校敷地)に向け、整備を推進

工業立地基盤の充実

コンテナターミナルの活用による物流促進

- コンテナターミナルの活用による物流促進など工業の利便性を図るとともに、農林水産業や商業、観光などと連携し、既存産業の活性化や新たな産業の育成と企業誘致を促進
- 必要に応じ、用途地域の見直し等を実施し、周辺環境に配慮した計画的な土地利用を推進

特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 漁業、水産加工業等の産業の維持・発展のため、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、必要な生活基盤の整備を推進

都市施設整備に係る取組の概要

緑地を活用した健康づくりと交流空間の形成

- 和田島緑地などの公園・緑地の保全・整備を進め、市民の健康づくりや交流を促し、快適な住環境の形成を推進

物流促進と地域間の連携

- 国道55号と徳島小松島港赤石地区を結ぶ「一般県道大京原今津浦和田津線」、「一般県道坂野羽ノ浦線」を骨格として、物流促進による港湾機能の強化を図り、既存産業の活性化や新たな産業の育成と企業誘致を促進

都市防災に係る取組の概要

耐震岸壁を核とした防災拠点の整備

- 耐震強化岸壁や緑地等が整備されている徳島小松島港赤石地区について、防災拠点として、災害時に避難場所や復旧・復興拠点となるよう、さらなる防災機能の強化を推進

災害時避難施設の整備

- 災害時避難施設の整備を進め、防災減災対策を推進

浸水対策の実施

- 海上自衛隊第24航空隊周辺の浸水被害の抜本的な解消を図るため、雨水ポンプ場の整備を推進

逆風マラソン



4) 立江・櫛淵地域のまちづくり

①地域の概要(立江・櫛淵地域)

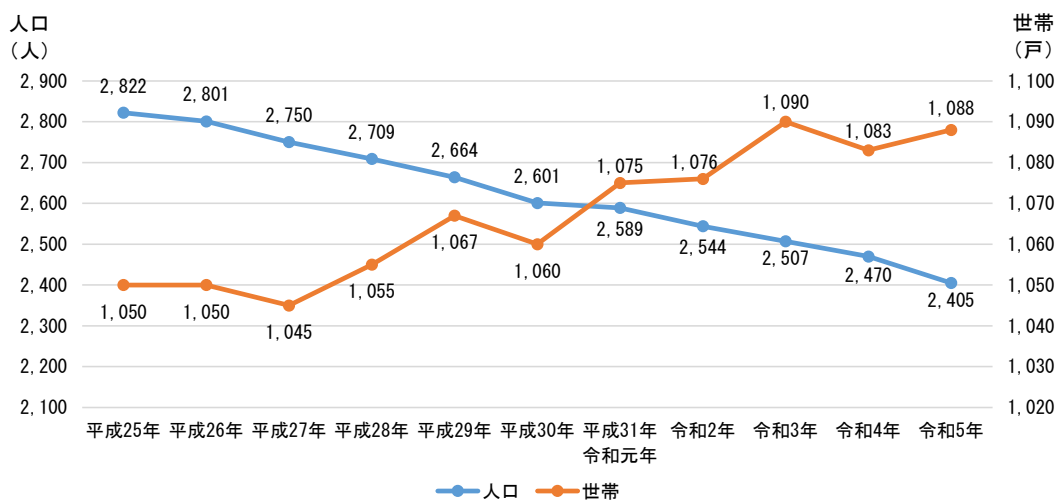
- 「立江小学校区」、「櫛淵小学校区」の2つの小学校区で構成します。
- 本市の南部に位置し、阿南市、勝浦町と接しています。
- 地形は、本地域の中央部から北東部にかけて平地となっており、北西部から南部にかけては丘陵地帯となっています。

地域の位置等



- 市全体の人口の推移と同様に、本地域においても人口減少が続いています。
- 本地域の人口は減少傾向にあり、世帯数は緩やかな増加傾向にあります。

地域の人口・世帯

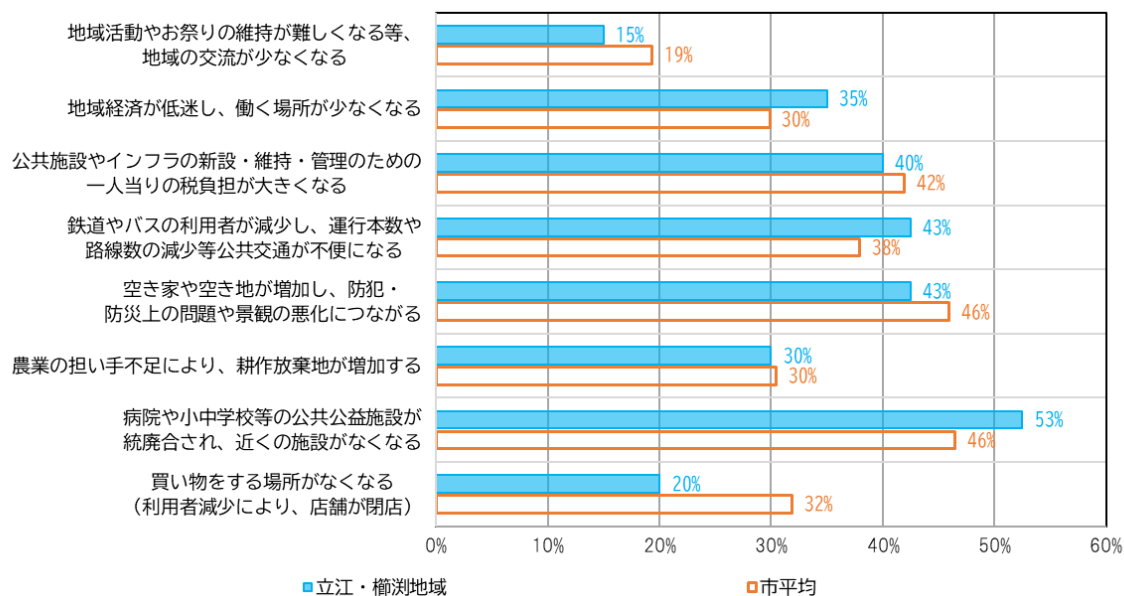


出典:住民基本台帳より集計

②市民の意向

- 市民アンケート調査結果によると、人口減少・少子高齢化による懸念事項として、「病院や小中学校等の公共公益施設が統廃合され、近くの施設がなくなる」という回答が最も多く、市平均を上回っています。また、「地域活動やお祭りの維持が難しくなる等、地域の交流が少なくなる」という回答が最も少なく、市平均を下回っています。

市民アンケート結果 人口減少、少子高齢化によるまちづくりへの影響として心配すること(複数回答可)



③土地利用

- 本地域の全域が市街化調整区域に指定されており、農地、山林等の自然的土地利用が大部分を占めています。
- 平地では、集団的な農地が広がっているほか、まとまりのある住宅地が点在しています。

④都市施設

- 主要地方道阿南小松島線や一般県道宮倉徳島線等が本地域内を通っています。
- 主要な公園・緑地として、立江川親水公園が整備されています。

⑤まちづくりワークショップの結果概要(立江・櫛淵地域)

まちづくりワークショップの結果より、立江・櫛淵地域の主な意見やアイデアを集約し、分類ごとにとめたところ、次のとおりとなっています。

地域の資源

◆施設

「あいさい広場」「立江川親水公園」「ふれあいセンター立江」
「立江寺と門前町」「立江八幡神社」「新四国88カ所」
「旧立江中学校体育館と運動場」

◆産業

「広大な農地」「うすかわまんじゅう」「たつえ餅」
「特産物(しいたけ、たけのこ、やまもも等)」「味噌、しょうゆ」
「いちご狩り」

◆自然

「自然が豊か」「自然(山・海・川・田・畑)」「立江川」「竹林」

◆イベント・文化

「天狗しばき」「ローソク祭り」「ミニ88ヶ所ウォーキング」「花火」

地域の課題

◆都市基盤

「道路幅が狭い」「小学校廃校」

◆産業

「企業が少なくなっている」
「地域の特産物をつくる、町から人を呼びよせる」

◆防災

「地すべりの対応」

◆コミュニティ

「町内から学校がなくなる」「人口減・少子高齢化」
「竹林が荒れている」「ボランティア減」

地域の将来像

◆都市基盤

「住み良い町」「山間地の土地利用」
「立江・櫛淵 IC(仮称)周辺のまちづくり・地域活性化」
「市街化区域の拡大(農地を除く)」

◆自然

「竹林の再生」「治水(浄水)⇒ホテル」「きれいな立江川を！」

◆イベント・コミュニティ

「地域の核として学校が必要」「人が集まるイベントなど、会場の設置」
「高齢者にやさしいまちづくり」
「小学校の活用(廃校後)コミュニティセンター設置等」

◆産業

「店舗誘致」「産直市」
「山間地の竹林利用(竹セルロース資材工場、バイオマス発電等)」

◆防災

「高齢者が安心して住める地域にする」「避難所の整備」
「誰もが楽しく歩くことができる安全な環境」

⑥まちづくりの目標（立江・櫛淵地域）

全体構想における位置づけや地域の現況・特性、まちづくりワークショップの結果等を踏まえ、立江・櫛淵地域のまちづくりの目標を次のように設定します。

○農業・産業の振興

現況と課題

本地域は全域が市街化調整区域であり、ほ場整備された広大な優良農地や日当りの良い山林を有するなど、農業に適した地域です。

まちづくりワークショップでは、広大な農地、特産物（しいたけ、たけのこ、やまもも等）、味噌・しょうゆ、いちご狩りが地域資源としてあげられています。課題として企業が少なくなっている、地域の特産物をつくる、町から人を呼びよせる、竹やぶの荒廃等が指摘されています。地域の将来像として産直市の整備、山間地の竹林利用（竹セルロース資材工場、バイオマス発電等）が提案されています。

目標

○豊かな農地と自然を守り、地域産業の活性化を促進する交流・回遊拠点としてのまちづくり

土地利用の規制や誘導により農地や山林を保全するとともに、農業の担い手支援や農産物のブランド化といったソフト対策との連携により、地域の主要な産業である農業の活性化を促進します。また、立江櫛淵 IC（仮称）周辺については、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、製造・物流等の企業立地等の需要増大に対する受け皿や、広域の交流・回遊拠点として、計画的で秩序ある安全・安心な土地利用を図ります。

○安全な日常生活の確保

現況と課題

本地域では近年、主要地方道阿南小松島線が整備され、将来は立江櫛淵 IC（仮称）が整備されるなど、道路交通の円滑化が図られつつありますが、JR 立江駅や立江寺周辺は狭あいな道路が多く残っています。また、平成16年の台風23号による大雨では立江川が氾濫し、大規模な洪水が発生しています。

まちづくりワークショップでは、道路幅が狭い、地すべりの対応等の課題が指摘されています。地域の将来像として立江・櫛淵インターチェンジ周辺のまちづくり、高速道路インターチェンジ設置による地域活性化、高齢者が安心して住める地域にする、避難所の整備、誰もが楽しく歩くことのできる安全な環境等が提案されています。

目標

○都市基盤の整備及び老朽化対策や防災対策により、安心して暮らせるまちづくり

狭あい道路の改善や交通安全施設の整備により、歩行者等の安全を確保するとともに、防災の観点を含めた橋梁等の老朽化対策や治水対策を進め、安心して暮らせるまちづくりを推進します。

○生活関連施設の減少と少子高齢化

現況と課題

本地域は全域が市街化調整区域であり、JR立江駅や立江寺周辺に規模の大きい集落が存在するほかは、小規模な田園集落が点在しています。近年、国道55号周辺に店舗や産直市が立地していますが、既存集落では商店や病院が減少しています。

まちづくりワークショップでは、地域の課題として町内から学校がなくなる、人口減少・少子高齢化、という意見があり、地域の将来像として地域の核として学校が必要、高齢者にやさしいまちづくり、小学校の活用（廃校後）コミュニティセンター設置、店舗誘致等が提案されています。

目標

○立江櫛淵IC（仮称）を活用しつつ田園集落の住環境向上とコミュニティの強化を図るまちづくり

JR立江駅周辺や主要地方道阿南小松島線、市道清水櫛淵線沿道の田園集落については、立江櫛淵IC（仮称）周辺の郊外計画的土地利用との連携を図り、生活利便性を向上します。

また、周辺の農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、居住環境の向上とコミュニティの強化を図ります。

○観光・地域資源の活用

現況と課題

本地域は、ほ場整備された広大な田園とゆるやかな里山に囲まれたのどかな風景が広がり、また立江寺周辺には歴史ある門前町が形成されています。

まちづくりワークショップでは、地域資源としてあいさい広場、立江川親水公園、ふれあいセンター立江、立江寺と門前町、立江八幡神社、立江新四国88ヶ所等の施設、豊かな自然（山・川・田・畑）、立江川等の自然資源、また、天狗しばき、ローソク祭り、ミニ88ヶ所ウォーキング、花火等の文化資源があげられています。地域の将来像として、立江櫛淵IC（仮称）周辺のまちづくり・活性化、竹林の再生、ホテルの生息する水辺空間（「治水（浄水）⇒ホテル」）、水質の再生（「きれいな立江川を」）、人が集まるイベント会場等の設置等が提案されています。

目標

○地域資源を活かし、多くの人が交流するまちづくり

歴史ある寺や神社、祭り、遍路道等の観光資源と田園・里山風景がおりなす美しい景観を保全するとともに水辺の再生を図ります。また、イベント開催や情報発信等のソフト対策との連携により地域資源を活かし、地域内外の人々の交流を促進します。

⑦まちづくりの方針(立江・櫛淵地域)

土地利用の方針

◆優良農地の保全

- 平野部に広がる優良農地は、ほ場整備や農業水利施設等の整備により農業生産性の向上や農業経営の安定を図り、地域産業の活性化を促進します。

◆山林地域の保全

- 山林地域は、山林が持つ景観、治水、防災など多様な機能を維持するため、自然環境の保全を図るとともに、樹園地の農業生産性向上を図り、地域産業の活性化を促進します。

◆田園居住地の生活基盤整備

- 田園集落などの地域は、既存集落と自然が育む環境を大切に、農業生産性の向上に向けた環境整備を進めることを基本としながら、良好な住環境の形成や地域コミュニティ維持のため、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、道路等の施設整備や空き家対策を実施します。

◆地域の拠点となる都市機能の集積

- JR阿波赤石駅周辺は、快適な市民生活に必要な都市機能(医療・福祉、子育て支援、商業・業務、教育・文化、行政など)のさらなる集積を促し、地域の利便性の向上を図ります。

◆計画的で秩序ある土地利用

- 国道55号沿道周辺の地域は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、地区計画等の活用により、地域の利便性向上や産業の活性化を図りつつ、津波避難機能を備えた施設を適切に配置することで、計画的で秩序ある安全・安心な土地利用を図ります。

◆特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 立江櫛淵 IC(仮称)周辺の地域は、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、物流等の新たな産業が集積する拠点を形成するため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を図ります。

都市施設整備の方針

◆地域振興施設の整備

- 立江櫛淵IC(仮称)と主要地方道阿南小松島線の周辺において、道路休憩施設と地域活性化施設の機能を備えた地域振興施設の整備を推進します。

◆交通安全対策の強化

- 安全で快適な日常生活や災害時における避難経路を確保するため、狭あい道路等の拡幅を図ります。
- 安全で安心できる交通環境を実現するため、通学路などの危険箇所の改善を図るとともに、ガードレール、カーブミラーなどの交通安全施設の整備を推進します。
- 通学路の安全確保に向けた取組みを推進するため、教育委員会や警察、道路管理者（国、県、市）などの関係機関が連携し、通学路の安全対策を図ります。

◆公園・緑地の整備

- 立江川親水公園等の身近な公園・緑地は、市民の健康づくりや憩い、交流の場、また生活にうるおいをあたえる自然とのふれあいの場として、保全・整備を進め、地域内外の人々の交流を促進します。

◆緑と水辺環境を活かした交流空間の形成

- 山林地域の緑豊かな自然環境や緑広がる田園風景、立江川水系の河川等の多様な生物を育む水辺空間等を活かし、特色と魅力ある環境づくりと交流空間の形成を図ります。

都市交通の方針

◆学校再編に伴う通学手段の確保

- バス事業者や関係部署と連携し、学校再編に伴う児童の通学手段の確保を図ります。

◆効率的な公共交通ネットワークの形成

- ICTの活用等による情報提供の充実や、効率的なバスと鉄道のネットワークを形成し、乗り継ぎにおける利便性の向上を図ります。

都市防災の方針

◆河川の防災対策

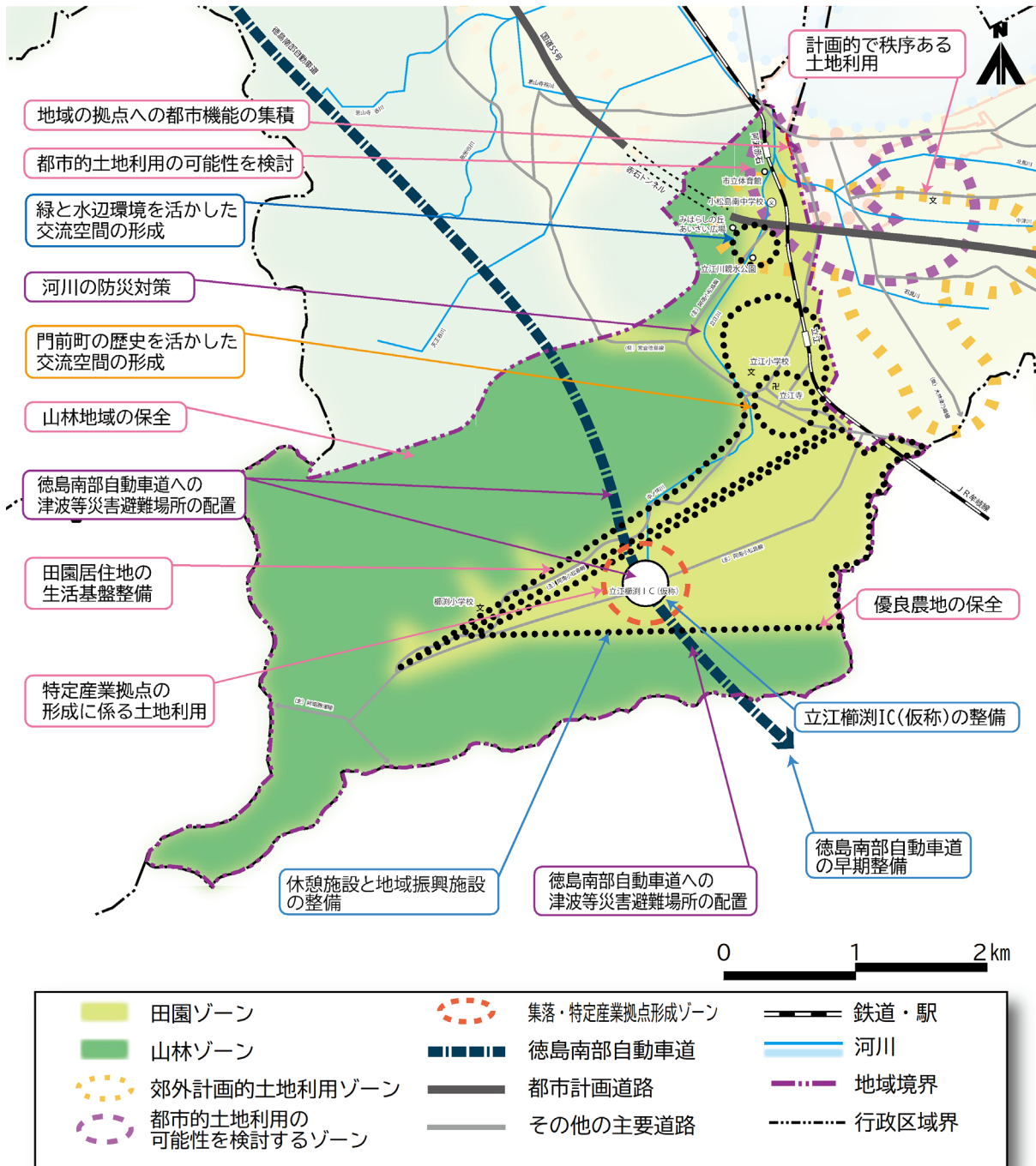
- 立江川排水機場等の適切な管理により、台風や局地的な集中豪雨などによる浸水被害の軽減を図ります。
- 河川の氾濫、浸水などの災害に対する安全度を高めるため、徳島県と連携し、二級河川立江川水系河川整備計画に基づいて河道拡幅や河床掘削、築堤等の河川改修を推進します。
- 土石流や急傾斜地崩壊等の土砂災害が発生するおそれのある区域は、砂防施設の整備を図ります。

都市景観の方針

◆ 門前町の歴史を活かした交流空間の形成

- 立江寺や遍路道などの歴史的建造物や史跡の資源は、周辺環境に配慮しながら保全を図り、歴史的な街並み景観を活用した観光・交流のまちづくりを推進します。

まちづくり方針図〔立江・櫛淵地域〕（令和12年度頃）



⑧取組の概要

土地利用に係る取組の概要

地域の拠点への都市機能の集積

- 市民生活に必要な都市機能のさらなる集積を促し、地域の利便性の向上を推進

計画的で秩序ある土地利用

- 地区計画等の活用により、農業や自然環境との調和を図ったうえで、地域の利便性向上や産業の活性化を推進

優良農地の保全

- ほ場整備や農業水利施設等の整備により、地域産業の活性化を促進

田園居住地の生活基盤整備

- 良好な居住環境の形成や地域コミュニティ維持のため、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、道路等の生活基盤の整備を推進

山林地域の保全

- 山林地域の緑豊かな自然環境や緑広がる田園風景などの緑地資源を活かし、特色と魅力ある環境づくりを推進

都市的土地利用の可能性を検討

- 都市機能の集積により、快適な住環境の形成が見込まれることから、市街化区域への編入も含め、都市的土地利用の可能性について検討

特定産業拠点の形成に係る土地利用

- 農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、物流等の新たな産業が集積する拠点を形成するため、地区計画等の活用により、計画的で秩序ある土地利用を推進

都市施設整備に係る取組の概要

徳島南部自動車道の早期整備

- 徳島市、小松島市、阿南市の渋滞緩和や、広域の連携強化を図るほか、災害時における広域交通ネットワークの確保等に向けて、早期整備を推進

休憩施設と地域振興施設の整備

- 道路休憩施設と地域活性化施設の機能を備えた地域振興施設の整備を推進

立江櫛淵 IC (仮称) の整備

- 立江櫛淵IC (仮称) の周辺については、農業や自然環境との健全な調和を図ったうえで、地域の利便性向上や産業の活性化に寄与する計画的で秩序ある安全・安心な土地利用を推進

緑と水辺環境を活かした交流空間の形成

- 立江川親水公園等の保全・整備を進め、地域内外の人々の交流を促進

都市防災に係る取組の概要

河川の防災対策

- 河川改修や排水機場、砂防施設等の維持管理・整備を図り、防災機能の強化を推進

徳島南部自動車道への津波等災害避難場所の配置

- 国及び県と連携し、徳島南部自動車道の道路管理用施設等を活用した、津波等の災害避難場所の確保と整備について検討

都市景観に係る取組の概要

門前町の歴史を活かした交流空間の形成

- 立江寺や遍路道などの歴史的建造物、景観を活かした観光・交流のまちづくりを推進

立江寺(四国八十八ヶ所霊場第19番札所)



立火(たてび)吹筒花火【立江八幡神社】

